
この下らなくも、素晴らしい世界で

変態紳士沈没戦艦BOTU

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

この下らなくも、素晴らしい世界で

【Nコード】

N0758W

【作者名】

変態紳士沈没戦艦BOTU

【あらすじ】

何度も転生を繰り返した男がネギまの地に降り立つ！

最強系で最初はちよいアンチ入るかもです。

恋姫も終わらないのにこの暴挙！

作者は何を考えてるんだ！

今まで更新できなかつた分、クオリティが落ちてるからリハビリを

考えてるんだよおおおおお!!!orz

・・・友達も書くから一緒に書こうぜって書き始めたこの連載、リハビリも兼ねて頑張っていきますのでよろしく願います。

プロローグ・・・グ？

記憶、そうこれは記憶

平和な時代、優しい父と母、仲の良い親友と書いて悪友と読む様な
ダチ、穏やかだったその時

暗転

恋する乙女達と死に物狂いで駆け抜けた乱世の世、初めて命を賭し
て護りたいと思った女性、激動の時

暗転

世界を救う為の神子とその仲間、過去の英雄との世界を賭けた戦い、
正義とは何か考えさせられた、苦難の時

暗転

過去の魔王、解かれた封印、魔王を倒すため時を渡り、魔王と戦い、
未来を勝ち取った、試練の時

暗転、アンテン、あんでん

.....

・・・

「ふあゝ・・・あふ」

暗い部屋の中、男が欠伸をする

「・・・ん？」

ふと机の上に置いた携帯を見れば、着信が有った事を示すランプがチカチカと光っている

「・・・麻帆良か・・・」

携帯を見て、男がそう呟きパチンと指を鳴らした瞬間に足元に魔方阵が展開され光が男を飲み込む

光が消えた時残っていたのは、暗闇と耳が痛くなるほどの静寂だった

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（前編）（前書き）

前回書いたプロローグ……グ？の記憶について
後書きに書くのを忘れてたんですが、上から順に

恋姫（呉）

ティルズ・オブ・シンフォニア

” ファンタジア

です。

もしかしたらいつか過去の話を書くかも

ちなみに現在連載中の、真・恋姫十無双 陳武編（化け物は貴様等
“人間”だろう）、の主人公兔々君ではないです（せんでry

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（前編）

深夜の麻帆良学園、世界樹広場

学園内の誰もが知っているその広場

霊脈により異様に発達した巨大な樹、神木・蟠桃ばんとう

学園内では認識阻害魔法によりただの大きな木として世界樹と呼ばれ親しまれている

そしてこんな時間にその広場に集まる人影

魔法使い（・・・）

世界には魔法使いが日夜、密かに活動をしている

例えば関西呪術協会

例えば関東魔法協会

例えばNGO団体の「悠久の風（AAA）」

その、関東魔法協会の魔法使いの大半が今、この広場に集まっているのだ

・
・
・
・
・
・
・
・

「・・・はん、これが関東魔法協会の実力者かよ・・・弱えな」

唐突に、つぶやくような、しかし広場全体に響く声が上から聞こえた

「……………っ!?」「……………」

即座に反応したのは5人の教諭と3人の女子生徒

拳銃とナイフを構える眼鏡を掛けた黒人の、一歩間違えればマフィアのような出で立ちをした男性教諭・・・ガンドルフイーニ
オールバックの黒髪、ヒゲ、グラサン、くわえタバコ、黒スーツの
こちらも一歩間違えればマフィアのような男性教諭・・・神多羅木
褐色の肌をした十字架を構えるシスター・・・シスター シャーク
テイ

魔法銃を構え、眼鏡を掛けた如何にもお父さんといった感じの男性
教諭・・・明石教授

眼鏡を掛けたストレートロングの野太刀を構えた女性教諭・・・葛
葉 刀子

金髪のストレートロングのなぜか不憫な感じのする女子生徒・・・

高音・D・グッドマン

褐色の肌の黒髪ストレートロングでデザートイーグルを構える女子
生徒・・・龍宮 マナ

デコ上げサイドテールで野太刀を構えた女子生徒・・・桜咲 刹那

「くけけ・・・何だよ、見どころある奴も居るじゃねーか」

「ふおおおお、これは手厳しいのお、グラク、今は一式 氷音だ」
・・・一式殿」

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（中編）（前書き）

今回は予想外な方との戦闘ww

誰が予想出来ただろうかつ！

主人公、実は色んな方と知り合いだったり・・・ww

伏線、伏線w

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（中編）

トツと、世界樹の枝から飛び降りてくる人影、一式 氷音

「皆、そう警戒するでない、失礼じゃろう？」

「……彼が皆に紹介したかった者、今日から警備を手伝ってくれる者じゃ」

後頭部が異様に発達した翁……麻帆良学園学園長 近衛 このえ
門 もんが氷音を紹介する 近右衛 このえ

「くけけ、なあにが手伝ってくれる、だ。

手伝わせるの間違いだろうがよ。

「……まあそれはいいや、で？腕試しとやらはオレが決めていいんだよな？」

「うむ……できればタカミチ君かエヴァと……」

済まなさそうに顔を歪める近右衛門

「……を無視して、考える

そして告げた名は……

……
……
……
……

両手に集めた気を？流彦へ向けて突き出す
突き出す、突き出す、突き出す、突き出す、突き出す、突き出す、

？流彦はそれを半泣きになりながら必死に避ける
避ける、避ける、避ける、避ける。避ける・・・

「・・・あれでも、ですか・・・？」

「うむ、あれでも、じゃよ・・・？」

「・・・学園長、目を逸らさないで下さい、不安になります・・・」

・・・
・・・
・・・

一式 氷音

彼が腕試しに選んだ対戦相手は三人

一人目は今戦ってる？流彦

自他共に認める限りなく一般人に近い魔法先生

二人目は神多羅木

フィンガースナップによる無詠唱魔法を得意とする魔法先生

三人目はタカミチ・T・高畑

言わずとした前大戦の英雄である

ルールは

相手を殺さないこと

勝敗は戦闘不能か降参で決まる

対戦時間は30分

30分続いた場合は引き分け

以上の4つ

そして一回戦目は30分を迎える

・
・
・
・
・
・
・

「そこまで！

30分立ったのでこの勝負は引き分けじゃ」

近右衛門の合図と共に腕を下ろす

最後1分は本気で撃っていたのだが結局、？流彦には当たらなかつた障壁を張る位置を微妙にずらしたり、撃つところを誘導したりして逃げ切ったのだ

判る奴には？流彦がやったことの凄さが分かるだろうが・・・
大半にはオレがそんなに強くなく見えただろうな・・・

？流彦は終わった直後に地面に大の字になって寝転がりながら

「終わった・・・でも最後の方に強くなるアレは先輩の・・・いや、

まさか・・・」

なんて呟いてこっちを見ているが・・・ニヤツと笑つといた

「さて、神多羅木

あんたと戦えるのは光栄だな」

目の前にはタバコをくわえて自然体の神多羅木

オレはというと髪をかき上げてオールバックに、後ろは肩あたりで
結ぶ

「・・・君が私を指名したのだろうか？」

「でも、本当に戦ってくれるとは思わなかったからな」

チラツと近右衛門を見て開始の合図を促す
グラサンをかけて準備完了

「っ！お前・・・っ！？」

「ふむ、それでは始めい！」

くけけ、今は再開せんかいを楽しもうぜ？
相棒？

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（中編）（後書き）

つてことで戦闘描写は省きました
？流彦がただ避けただけなのでw

主人公の対人関係図

学園長・・・古い友人

タカミチ・・・紅き翼の仲間

？流彦・・・魔法大学の先輩

神多羅木・・・昔の仕事の相棒

今明せるのはコレくらい

まだまだ増えますがw

麻帆良+襲来II 実力試し(中編2)(前書き)

2です。

3もあるy)ry

遅くなつてすみませんorz

麻帆良＋襲来Ⅱ 実力試し（中編2）

バチチチチッ

始まって数分、二人は距離をとって魔法の射手を撃ち合う

その激しい撃ち合いに見学している魔法生徒、特に氷音の登場に反応できなかった生徒たちは啞然とした

この大量の魔法の射手の撃ち合いを二人共無詠唱でしていることそして何より、神多羅木はフィンガースナップと言う一動作を置いて魔法の射手撃ち出しているのに対して氷音はポケットに手を入れたまま全くと言っていいほど動作をしていないのだから

無詠唱魔法は詠唱魔法に比べて威力が落ちる

詳しい説明は省くが、その威力減少を神多羅木はフィンガースナップと言う一動作置くことで抑えているのだが、氷音はその一動作さえ置かずに神多羅木と撃ち合っているとさえいえばわかるだろうか

高速戦闘において一動作というのは致命的であるが未だ二人の拮抗が保たれているのは氷音が手を抜いているにほかならないのであるが・・・

「・・・相変わらずだな、お前は」

「くけけ、お前は鈍ったんじゃないの？」

それでもなお、激しく撃ち合う中しゃべる余裕があるのはわざと拮抗させているからなのだろうか・・・

「ま、後でいろいろ話そうや、酒でも飲みながら、な？」

「フ・・・お前はそう言う奴だったな・・・」

氷音はくけけと笑い、神多羅木はニヤリと笑う

そして二人とも同時に攻撃を止める

「学園長、俺の負けです

今の俺ではコイツには到底、勝てないでしょう」

突然終わった攻防に魔法先生・生徒は肩透かしを食らったような感じになっている

が、当の二人はそんな空気などどこ吹く風

学園長も「うむ、この勝負氷音君の勝ちじゃな」と締めくくっている

「くけけ、タカミチ、本気で来いよ？」

「あははは・・・お手柔らかに頼みますよ？」

三回戦目

おそらく麻帆良陣が氷音の実力を一番まともを知ることのできる戦いが始まる

麻帆良+襲来II 実力試し(中編2)(後書き)

最後がggdgdに) ;、、(

仕事きついお・・・

まあ、次の更新はなるべく早めに致します

・・・もしかしたら恋姫の方もw

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0758w/>

この下らなくも、素晴らしい世界で

2011年12月8日01時43分発行